

平成30年度第1回  
東京都現代美術館美術資料収蔵委員会  
評価部会

平成30年8月1日（水）

午後2時00分開会

**矢中文化施設担当課長代理**：それでは、お時間になりましたので、始めさせていただきますと思います。

本日はお忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから「平成30年度第1回東京都現代美術館美術資料収蔵委員会評価部会」を開催いたします。

私は、東京都生活文化局文化振興部で文化施設担当の課長代理をしております矢中と申します。本日、司会を務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

まず、本日御出席いただきました委員の皆様への御紹介からさせていただきますと思います。

私に向かって左側の席から、石井孝之委員でございます。

蔵屋美香委員でございます。

小山登美夫委員でございます。

長門佐季委員でございます。

続きまして、事務局職員を御紹介いたします。

東京都現代美術館副館長の松下でございます。

同じく事業企画課長の加藤でございます。

同じく事業係長の牟田でございます。

どうぞよろしく願いいたします。

続きまして、お手元の資料の御確認をお願いいたします。

まず1枚目、会議次第がございます。

次に、右上にルビが振ってあるかと思いますが資料1から5までの資料及びA4横の評価表が1枚ございますので、お手元にそろっていますか御確認をいただければと思います。よろしいでしょうか。

配付いたしました資料につきましては、後ほど回収させていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

評価対象資料の価格評価に関する議事につきましては「東京都現代美術館美術資料収蔵委員会設置要綱」の第11によりまして、非公開という形になります。

当部会の議事録につきましては、同要綱第11の第2項の定めに従いまして、美術資料の収集が決定した後、公開を予定しております。公開に当たりまして、委員の皆様には、個人情報など公開に差しさわりのある内容がないか、追って確認をさせていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、議事に入ります。

まず、本日審議いただきます収集作品の説明をお願いいたします。

**松下副館長**：それでは、収集作品について御説明をいたします。

本日、委員の皆様へ審議をお願いする作品は、購入2件でございます。

これらの作品の収集につきましては、午前中実施いたしましたコレクション部会で御承認をいただいております。作品の詳細につきましては、事業企画課長の加藤、事業係長の牟田及び担当の学芸員から御説明をいたします。

**加藤事業企画課長：**では、御説明をさせていただきます。

個別の作品の御説明に先立ちまして、資料1としてお配りさせていただいております「東京都現代美術館美術資料収集方針」につきまして、御説明を申し上げます。

まず、この方針の「1 方針策定の趣旨」として、「21世紀の美術文化を担う東京都現代美術館の美術資料の収集に当たって、その方針を定め、首都東京、国際都市東京の美術館にふさわしい美術資料の収集を図り、常設展示の一層の充実を目指す」ということでございます。

「2 収集の基本的考え方」として、「東京都現代美術館は、内外の現代美術を中心に次の視点から資料収集をする」となっております。

「(1) 首都東京の視点から、東京都現代美術館の常設展示が、我が国の文化的自己表現となるように、日本の美術の優れた作品を収集する」。

「(2) 国際都市東京の視点から、東京都現代美術館が国際文化の拠点となるように、友好都市を含む諸外国の作品を収集する。欧米のみならずアジア等、世界各国の作品も収集する」。

「(3) 現代社会における美術表現の多様化に対応するために幅広い分野で収集する」。

「(4) 現代の美術がどのような変遷をたどって生まれてきたかを知る上で必要な近代の作品を収集する」。

「(5) 収集は、次項の方針に基づき計画的に行う」というものでございます。

「3 収集方針」の(1)がアとイの2項目、(2)がアからクまで定めてございまして、この収集方針につきましては、お手元に配付させていただいております資料3の個別資料の「該当する規定」という項目に、この収集方針のどこに当てはまるのかを記載してございます。

まず、最初の「(1) 収集対象」といたしましては「ア 日本の現代美術の作品及びそれらを明確にとらえるために必要な、友好都市を初めとする現代の欧米、アジア等の作品」、「イ 現代美術の形成を考える上で必要な近代日本及び海外の作品」としてございます。

「(2) 収集分野」は、ごらんいただきましたように、アからクまで幅広い分野での収集を想定しているものでございます。

そして「4 収集方法」は「収集は、購入、寄贈及び寄託等によるものとする。収集に当たっては、学識経験者を中心とした『東京都現代美術館美術資料収蔵委員会』の意見を聴くものとする」と定めてございまして、当委員会にお諮りさせていただくということになっております。

この資料収集方針に基づきまして、今回、2点の購入作品について審議をお願いしたいと思っております。

お手元のA4横になっております資料2の一覧と、資料3として個別の資料を御参照いただければと思います。

まず、購入No.1、関根直子の《Mirror Drawing》で、これは2017年の作品で3点組、寸法は180×298cmでございます。

関根直子は、1977年、東京生まれで、鉛筆やシャープペンシルによって描かれる身体性を帯びた表情豊かな絵画によって高く評価されている作家でございます。

当該作品は、パネルにジュッソを載せて研磨した平滑な支持体に、ガッシュ、鉛筆を重ねて制作をされておりまして、まるで鏡面のような画面が光の角度によって見え方が複雑に変化するというものでございます。

当該作家の作品につきましては、これまで1999年から2011年までの、鉛筆やシャープペンシル、木炭などによる作品を7点収蔵しております。本作はそれに続く時期の作品といたしまして、現在活躍する作家の仕事をその展開を含めて十二分に紹介するという、当館の役割にかなうものとして候補とさせていただきたいと考えているものでございます。

次にNo.2、梅津庸一の《智・感・情・A》という、2012年から2014年にかけて制作された4点組の作品でございます。

作家は、1982年、山形の生まれでございまして、日本における近代美術の展開とその末尾に位置する自分自身の関係を探求し続けております。また、2014年からは美術教育と美術運動の歴史を生き直すべく美術共同体「パーブルーム」を主宰していることでも知られております。

本作品は、日本における近代美術の展開とその末尾に位置する自分自身の関係の探求という、梅津の中心的なテーマに正面から切り込んだ作品として、これまで8度にわたり重要な展覧会には必ず登場してきた代表作でございます。

黒田清輝の《智・感・情》を題材とした作品でございまして、まさに梅津がテーマとしている近代美術の展開とその末尾に位置する自分自身というものの代表的な作品の一つということになっております。

本作品は、日本近代絵画の問題と現在とをつなげる制作活動と言説により、現代のアートシーンに大きな影響力を持つ作家、梅津の代表作であります。また、近代日本絵画の代表作を引用した本作品は、現代美術を歴史的視座から捉え編纂しようとする当館のコレクションにおいて、参照項として活用が期待されるものでございます。

なお、同作家の作品につきましては、現代美術館におきましては初めての収集ということになります。

それぞれの作品につきましては、後ほど実際の作品を御検分いただきますとともに、それぞれの担当者からさらに詳しい作品についての御説明を申し上げたいと考えております。

以上でございます。

矢中文化施設担当課長代理：では、事前の説明につきましては以上で終了させていただきます

ます。

早速ではございますが、作品の実際の検分をお願いしたいと思いますので、別室のほうへ移動していただきますよう、よろしくお願いいたします。

(委員離席)

(作品検分)

(委員着席)

**矢中文化施設担当課長代理**：ありがとうございました。

では、実際に作品をご覧になっていただきまして、何か御意見・御指摘等、この場でございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、評価方法の御説明をさせていただきたいと思います。

お手元にありますA4横の評価表に、評価価格、金額を記載していただきまして、御署名をお願いいたします。

皆様の評価額の最高価格と最低価格を除いた残りの平均値を評価額といたします。金額は税込みでの御記入をお願いいたします。

御質問はよろしいでしょうか。

御質問等がございませんようでしたら、早速、お手元のボールペンで御記入をお願いいたします。記入が終了されましたら評価表を係員にお渡しください。若干、確認のお時間をいただきまして、確認が完了いたしましたら委員会終了ということになります。

(委員評価書記入)

(事務局評価書確認)

**矢中文化施設担当課長代理**：確認は終了いたしました。では、委員会は終了という形になります。

先ほど御説明をさせていただきましたが、本日お配りした資料につきましては、一式回収させていただきたいと考えておりますので、机の上に置いたままにしていただければと思っております。

今後とも東京都及び東京都現代美術館につきまして、御指導のほどよろしくお願い申し上げます。

では、本日の委員会を終了したいと思います。ありがとうございました。

午後2時34分閉会

以上